

専務のコラム



世界中を巻き込んでパンデミックとなった新型コロナが発生して早や2年が経とうとしている。そして第5波もやっと終息のめどが立ち、10月から全国の自治体で行動制限の緩和が徐々に始まったが、またいつ感染拡大するのかと不安に思いながらも経済の回復と社会の正常化・コロナの終焉を誰もが願っているところだろう。



今年7月下旬からはワクチンパスポート（新型コロナワクチン接種証明書）が導入され海外渡航者への運用が始まった。それを提示することによって海外渡航制限の緩和や隔離期間の軽減措置がとられる。国内では民間主体の取り組みに任されるようだが、飲食代金や利用サービスの割引、イベント会場や競技場の優先入場、介護施設や医療機関の面会など活動制限の緩和がなされる一方、個人情報情報の漏洩や接種を受けていない人に対する同調圧力や自由の侵害が懸念されており、差別・偏見を助長することの無いよう慎重に取り扱う必要がある。任意であるはずのワクチン接種なのに、受けた人と健康上の理由や副反応への心配から受けていない（受けられない）人との間で不公平が生じてしまうのは問題だからだ。

そもそも2回ワクチン接種をしても効果は半年くらいで薄れるとの事でブースター接種を推奨するのならば、有効期限のない接種証明書って意味があるのか？とか、これから毎年ワクチン3回打って毎年証明書を申請しなくては行けないのか？とか、注射針が怖くて面倒くさがるの私としてはこれまた頭の痛い（実際は腕が痛い）話である。国内の飲食店や交通機関、宿泊施設での提示が求められるようになると、あらゆる場所でトラブルが起きるだろうな、と考えれば考えるほど心配が尽きない。



今後、感染リスクをゼロにすることは不可能だろう。ならば個々人が感染防止対策を講じながらwithコロナの時代を主体的に受け止め、感染者やその家族の気持ちに寄り添い、社会のために働く医療従事者や福祉の方々に感謝しつつ、お互いを尊重しあう社会にするのは、今生きている私たちに他ならないと強く思っている。新型コロナはたくさんの命を奪ってしまった。しかし、終戦後みごとに復興を遂げた日本のように遅く、世界が驚くような大震災に見舞われても決して諦めず立ち上がり、我がことのように涙し助け合い相手を思いやる日本人としての「心」は決して奪われてはならないはずだ。

